

私は、発議第4号核兵器禁止条約への署名と批准を求める意見書(案)に賛成の立場で討論いたします。

意見書案にあるように2017年7月に核兵器禁止条約が採択されました。

実はその年の3月、印象的な出来事がありました。核兵器禁止条約交渉をボイコットした日本政府代表は、「核兵器国の理解や関与が得られないことは明らかで、交渉会議に建設的かつ誠意をもって参加することは困難」と会議の初日に不参加を表明しました。日本代表が座るはずだった席に折鶴が置かれ、「あなたがここにいてほしい」というメッセージが添えられていたのです。唯一の戦争被爆国でありながら、会議をボイコットした日本政府に対する落胆と非難のメッセージです。先の賛成論者も引用されていましたが、本当に心を打たれるエピソードでした。これは被爆者の方々をはじめ日本国民に対する責任を問うものでしたが、その席に日本代表が座ることはありませんでした。

そしてその約3か月後である7月7日、米ニューヨークの国連本部での条約交渉会議で採択されました。「核なき世界」を長年訴え続けてきた被爆者や条約批准国の関係者らは歓喜に包まれました。しかし、米国など核保有国は非難声明を出して反発、日本政府も同調しその後も安全保障環境の現実を強調するだけでこれまでの姿勢を変えていません。

条約は核兵器の使用、開発、実験、製造、取得、保有、貯蔵、移転などを幅広く禁止。核使用をちらつかせる「脅し」の禁止も盛り込まれています。また、核兵器の使用や実験の影響を受けた人々に医療などの援助を提供することもうたわれています。

核の非人道性はどの時代どの国にとっても許されるものではありません。もうすぐ、あの悲惨な原爆が広島、長崎に投下された8月6日、9日がやってきます。

この条約への署名と条約の批准を求め、この意見書に賛成と致します。